

ちょっといい話

人間の脈は一日十万回打っているそうです。私の心臓も相手の心臓も、ぜんまいも電池もないのに、死ぬまでそうやって毎日拍動を続けて動いている。そう思うと、私はそれだけでも認め合いたくなるのです。そこから対話が始まります。（経済学者・暉峻淑子（てるおか・いつこ）さん）

親というのは目の上のタコブで、ぶつかって当然なのです。親子の葛藤がないなんてありえません。私にとって両親は反面教師でした。精神的にも経済的にも自立し、自由に生きるという決意ができたのは両親のおかげです。乗り越えるべき親がいたという点では、とても理想的な家庭でした。（作家・下重暁子さん）

都議会議員選挙の結果

有権者 318,560 人	当・もりさわ恭子 32,261	次・田中たけし 19,546
投票数 165,640 人	当・山内あきら 28,591	あべ祐美子 17,612
投票率 52.00% (前回 42.72%)	当・伊藤こういち 26,184	沢田ひろかず 15,807
	当・白石たみお 23,176	

区議会質問のお知らせ

7月6日から第2回定例会が始まりました。
一般質問の概要をお知らせします。

1. 子どもの交通安全

交通事故死傷者は、年々減少していますが、2・3年ごとに小学生の交通事故死が続いています。発生状況の特徴として、5.5歳未満道路の事故件数は、平成23年以降86、106、85、65、70件と増減を繰り返し、区道が4割以上を占めています。子どもでは、平成27年の小中学生死傷者数28人のうち、学校管理下18人、帰宅後などの管理下外10人となっています。

従って、区道の安全整備と自分の身の安全を守る意識・ルールの徹底が大切です。三木小学校では安全指導などにより、自転車ヘルメット着用率は96%となる成果をあげています。

（質問）ガードレールなどの区道安全整備状況や小中学校の自転車安全教室の実施状況を質問しました。また、小学生の自転車ヘルメットの所有率、着用率も聞きました。

2. 教育・コミュニティスクール

品川区は教育改革プラン21の成果を継承しつつ、新たに品川教育ルネサンスに取り組み始めました。特に、義務教育9年間を地域にも支えていただけた品川コミュニティ・スクールの導入が始まっていますが、地域に学校を信頼してもらうために、地域プライド、地域に根差した教員の意識をつくっていく、と教育長は述べています。

（質問）品川コミュニティ・スクールのこれまでの成果や子どもたちへの影響を質問しました。また、「地域プライド、地域に根差した教員の意識」の目指すものは何かも聞きました。

3. 屋外受動喫煙防止

屋外の受動喫煙防止の取り組みは、法的根拠がないため、品川区は独自に、受動喫煙防止対策基本方針、歩行喫煙防止条例を策定し取り組んでいます。日本禁煙学会は、煙の到達範囲は直径14メートル内で、屋外と言えども、厚生労働省の室内分煙基準に準じて対策を講じなければ、行政の整合性が確保できないと指摘しています。

（質問）公園等に設置する喫煙所の基準やパーテーションで囲っても煙が拡散し、受動喫煙の危険性や煙への不快感が指摘される箇所に対する対策を質問しました。また、根拠を明確にした方針の策定の考え方を聞きました。

4. 避難所

避難所運営マニュアルは、避難所52か所中5か所が未整備であり、策定済み47か所を見ても、配慮項目の記載は、女性や子ども15か所、防犯対策44か所、高齢者や障がい者36か所、ペット同行避難9か所という現状です。また、避難所の運営管理でも、町会や区職員など各組織の役割分担が不明確で、責任の所在や指揮命令系統が確立されていないと感じます。

（質問）避難所の課題とその要因の分析はどのようにしているか質問しました。また、役割や責任の所在、指揮命令系統を明確にすることについても聞きました。

5. コミュニティバス

交通の利便性が高い品川区ですが、高齢者等、移動に困難を感じる方に、外出の機会をさまざまな形で確保することは大切であり、163号線など将来の道路ネットワーク整備を見据え、公共交通ネットワークを検討する必要があります。以前取り上げたパーソントリップ調査や四段階推計法で得られた品川区のデータを活用し、公共交通ネットワークやコミュニティバスのあり方を引き続き考えていきたいと思います。

（質問）パーソントリップ調査と四段階推計法によってどのようなデータが得られたのか質問しました。また、財政的に厳しい自治体でコミュニティバスが導入されていますが、品川区の財政負担の許容範囲はどのようなもので、黒字でなければ導入しないのかも聞きました。

ワクながわ新聞 第135号

発行日：
平成29年7月15日（土）

発行者：
若林ひろき 品川区議会議員
ブログ：
<http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/>



「老子・莊子
釋義・角立之論」その1
私の本棚

「上善は水のごとし」…ここでは、新潟のお酒ではなく、老子に出てくる言葉になります。論語は孔子が弟子の問い合わせに対し、非常に短い言葉で答えてるので解説が必要です。が、老子などは物語風であったり、論理の流れがあつたり、比較的読みやすいのではないでしょうが。【はじめに】から「燕の国」の田舎の若者が都会の歩き方を学ぼうと、風の歩き方を学ぼうと、前へ行つたが、マスターする前に帰国しなければならなくなつた。田舎流の歩き方はとつぐに忘れてしまふ。根底に存在する精神は、つて歸つた（邯鄲の歩み）。根底に存在する精神まゝ、とうとう故郷まで文化を再認識し、新しい知識・文化を取り入れることが、今求められているのではないかでしょうか。また、古典には多くの人に力を与えてきた言葉の力があり、先人たちの知恵が結集されています。